「この街」のために。「あなた」のために。

そうこう®

SOUKOU

2018年9月号（月刊）発行：社会医療法人 壮幸会 行田総合病院

社会医療法人 壮幸会
行田総合病院
TEL：048-552-1111

巻頭特集：二次検診を受けましょう！
特　　集：当院で受けられる健診・検診

9月

2018／vol.043

二次検診を受けましょう！

当院でも各診療科で対応しています。

健康診断とは、身体が健康なのかそれとも『病気の危険因子』があるのかを確認するためのもので、『特定の病気』を発見するものではありません。

もし、健康診断で精密検査・再検査の必要があると判断された方は、二次検診を受けましょう。二次検診を受けることによって、『特定の病気』の早期発見と治療につなげることができます。

当院では、胃がん検診や大腸がん検診、前立腺がん検診、人間ドック、脳ドックなど、各種健康診断の結果に応じた診療科の専門医と放射線読影医、病理診断医による二次検診を受けることができます。

他の医療機関で健康診断を受診された方も健診結果をご用意の上、ご相談ください。

二次検診ご相談窓口⇩⇩地域医療連携室
TEL 048・564・2537

健康診断 ▶ 胃がん検診⇨消化器内科（二次検診）

●胃内視鏡検査（胃カメラ）

胃がん検診は、胃X線検査やペプシノゲン検査という血液検査などで行われています。当院での二次検診は、消化器内科が対応しています。健康診断の結果から医師の診察を受診していただき、その後、必要に応じて内視鏡検査を実施いたします。

当院では、内視鏡専門医師が月～土曜まで毎日検査を行っており、内視鏡により健康診断で指摘された箇所を詳しく検査します。異常を認めた場合には、組織を採取し、病理診断医が細胞レベルで検査します。

万が一、病理検査によって胃がんが判明した場合でも早期であれば内視鏡での治療が可能です。

また、それよりも進行した胃がんであっても消化器外科と連携し、手術療法または化学療法を実施できる体制が整っています。

健康診断 ▶ 大腸がん検診⇨消化器内科（二次検診）

●大腸内視鏡検査（大腸カメラ）

大腸がん検診は、便に含まれる血液を調べる便潜血検査で行われています。こちらも消化器内科で二次検診に対応しています。

便潜血検査で陽性となり、大腸がんと診断される確率は3%程度あります。そのため、大腸内視鏡での二次検診を実施することは大切であり、早期がんであれば内視鏡での治療が可能です。進行状況によっては、上記胃がん同様、病理診断科・消化器外科と連携して治療にあたります。

健康診断 ▶ 心臓の検査⇨循環器内科（二次検診）

●心電図異常の検査

健康診断で実施される心電図検査で『脈（リズム）異常』や『血流異常』を指摘された場合には、二次検診で精密検査をすることをおすすめします。脈（リズム）異常の場合は、心房細動などの不整脈がないか精密検査を実施していきます。

当院では、ホルター心電図検査装置を24時間装着していただき日常生活の中で心臓に異常が出ていないかを調べます。血流異常では、運動負荷心電図検査（運動時に生じる変化を診る検査）や心臓超音波検査を実施していきます。それぞれの検査で所見があり、診断を確定していく場合には、更に心臓カテーテル検査（写真）を行います。

当院は循環器内科医師３名体制（１名は10月より入職予定）で検査・治療を行っています。カテーテル治療に難渋した場合には、手術治療を大学病院へ依頼できる連携体制も整っています。

健康診断 ▶ 前立腺がん検診⇨泌尿器科（二次検診）

●PSA検査

前立腺がん検診は、PSAという前立腺特異抗原を調べる血液検査で行われています。前立腺特異抗原は前立腺から分泌されるPSAタンパクという物質が血中にどれだけ存在するかを測定します。通常、PSAは血中にほとんど存在しないため、健康診断にて陽性と判定された場合は、泌尿器科での二次検診を受診しましょう。

泌尿器科医師は、超音波検査や直腸診を行った上で、直接前立腺の組織を採取し、病理診断による診断確定を行います。当院では、泌尿器科医師５名と病理診断医による体制で検査から診断、手術療法や化学療法で治療を行います。

手術療法では先進医療機器である『ダ・ヴィンチ』によるロボット支援手術（写真）も導入しており、身体に負担の少ない治療を選択できる体制が整っています。

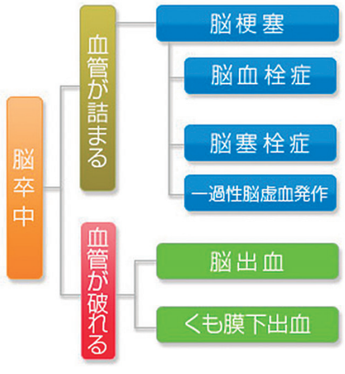
健康診断 ▶ 脳神経の検査／脳神経外科（二次検診）

●脳ドック

脳ドックは、脳MRI、脳MRA、頸部MRA、頸動脈超音波検査、血液検査などが行われます。これらの検査では脳血管疾患（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、頸動脈狭窄など）を早期発見すること、それらの危険因子を早期発見することを目的としています。

健康診断で異常を指摘された箇所を前出の検査によってさらに精密に調べ、現在3名体制で診療を行っている脳神経外科医が血圧、心電図、血液検査などの結果を交えて総合的に診断します。

治療が必要となった場合には、最新の血管撮影装置などを使用し、狭くなっている血管を拡張する治療や脳腫瘍に対する手術治療にも対応しています。治療後の社会復帰に向けては、リハビリテーションを専門に実施する回復期リハビリテーション病棟も併設しています。



当院で受けられる健診・検診

ご予約は⇨⇨⇨行田総合病院医事課健診担当　TEL.048-554-0005

種　類		対象者	検査目的・内容	金　額
一般健診		16 歳以上	雇入時の健康診断（検査内容はお問合せください） 定期健康診断（検査内容はお問合せください）	15,833 円 19,840 円
企業健診		対象企業にお勤めの方	企業の希望に沿って検査項目を設定させていただきます。ご相談ください。	検査内容により異なります。
行田市 行田市在住の方に限ります	特定健診	行田市国民健康保険に加入中で 40 ～ 74 歳までの方	生活習慣病の発症を未然に防ぐために、メタボリックシンドロームに着目した健診（身長・体重・腹囲・血圧・血液・尿検査等）	500 円 ※年度 70 歳以上無料
	後期高齢者健診	75 歳以上の後期高齢者医療保険に加入の方	自分の健康状態を知り、病気の早期発見を目的とした健診（身長・体重・血圧・血液・尿検査等）	無料
	肝炎ウイルス	40 歳以上の方で過去にこの検査を受けたことがない方	血液検査（B 型・C 型肝炎ウイルス検査）	500 円
	ヤング健診	15 ～ 39 歳の方。左記以外の年齢で生活保護受給中の方	身長・体重・血圧・血液・尿検査等	1,000 円
	乳がん	40 歳以上の女性で昨年度市の検診を受けていない方 行田市からクーポン券が届いた方	乳房レントゲン検査（マンモグラフィ）	800 円
	大腸がん	40 歳以上の方	検便（潜血）検査（⇨ p2 に関連記事） ※事前に検査容器が渡されます。	500 円 ※年度 70 歳以上無料
	前立腺がん	50 歳以上の男性	血液検査（PSA 検査）（⇨ p3 に関連記事）	500 円 ※年度 70 歳以上無料
	胃内視鏡検診	40 歳以上の方	胃カメラによる胃の検査（⇨ p2 に関連記事）	3,000 円
社会保険特定健診		社会保険に加入中のご家族（被扶養者）の方	生活習慣病の発症を未然に防ぐために、メタボリックシンドロームに着目した健診（身長・体重・腹囲・血圧・血液・尿検査等）	保険組合の種類によって異なります。
協会けんぽ 生活習慣病予防健診		協会けんぽ加入中のご本人	身長・体重・血圧・血液・尿・便・心電図・胸部・胃部レントゲン検査等	7,038 円
がんリスクスクリーニング AICS（男性５種）		40 ～ 90 歳の男性	血液検査（胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、前立腺がん）	25,920 円
がんリスクスクリーニング AICS（女性６種）		25 ～ 80 歳の女性	血液検査（胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、乳がん、子宮・卵巣がん）	25,920 円
脳梗塞・心筋梗塞リスクスクリーニング LOX-index 検査		40 歳以上	将来の脳梗塞・心筋梗塞が心配な方 血液検査（脳梗塞・心筋梗塞）	12,960 円
MCI スクリーニング検査		50 歳以上	血液検査（軽度認知障害）	21,600 円

人間ドック・脳ドック

種類		対象者	検査目的・内容	金額
当院設定	人間ドック	－	検査内容を充実させ、人間ドックを半日で受けられます。忙しくて時間が取れないという方でも受検しやすくなっています。内科診察、身体測定、眼科検査、循環器、呼吸器、消化器、尿一般、血液一般、肝機能（胆・膵）、血中脂質、糖尿病、腎機能、血清、血液型、感染症等。	47,000 円
	脳ドック		脳卒中（脳出血・脳梗塞・くも膜下出血）の予防につながります。脳ドック単独検査（頭部 MRI、頭部・頸部 MRA）。	26,000 円
	併診ドック		人間ドックと脳ドックを同時に検査します。	72,000 円
行田市 行田市在住の方に限ります	人間ドック	行田市国民健康保険に 4 カ月以上加入中の方で 35 歳以上、国民健康保険税を完納している方	行田市指定の検査項目となります。	11,960 円
	脳ドック（⇨ p3 に関連記事）			6,000 円
	併診ドック		人間ドックと脳ドックを合わせたものになります。	27,170 円

※各健診・ドックには、ご希望に応じて各種検査（前立腺がん検査、胃部内視鏡、リスクスクリーニングなど）を追加することが可能です。
お申込みの際にお申出ください。

主な血液成分の見方

行田総合病院検査科

健康診断の血液検査結果。血液成分は大抵欧文で表記されています。
ここではそれらがどのような血液成分なのかを解説。
血液検査の結果と合わせてご覧ください。

項　目	成分名	解　説
TP	総蛋白	栄養状態や肝・腎機能をみます。低栄養などで低値となります。
Alb	アルブミン	栄養状態や肝障害の程度をみます。
BUN	尿素窒素	腎機能の指標に用います。腎機能の低下により高値となります。
CRE	クレアチニン	
Na	ナトリウム	体内電解質浸透圧（水に溶けて電気を通すミネラルのイオン。体内の水分量や水素イオン濃度を一定に保ち、神経の伝達や心臓、筋肉を動かすことなどに深く関わっています）をみます。水分摂取障害などで Na・Cl が高値になります。
K	カリウム	
Cl	クロール	
T-Bill	総ビルビリン	黄疸、肝機能、胆道系の指標。胆石などでも高値になります。
D-Bill	直接ビルビリン	
AST	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ	肝機能の指標。肝・心・筋の疾患により高値となります。
ALT	アラニンアミノトランスフェラーゼ	
LD	乳酸脱水酵素	肝機能の指標。血液疾患などでも高値になります。
ALP	アルカリホスファターゼ	肝機能の指標。胆道系疾患（胆汁の停滞）により高値になります。 アルコールの摂取量によっても高値になります。
γ -GTP	γグルタミルトランスペプチダーゼ	
CK	クレアチンキナーゼ	骨格筋・心筋・平滑筋の損傷により高値になります。
S-AMY	血清アミラーゼ	膵臓や唾液腺の疾患によって高値になります。
UA	尿酸	主に痛風で高値になります。腎障害がある場合も高値になります。
Ch-E	コリンエステラーゼ	肝機能の指標。
T-Cho	総コレステロール	血管や細胞膜を作る成分。 過剰にあると血管に沈着し動脈硬化などの原因になります。
HDL-Cho	高比重リポたんぱく質	溜まった LDL-Cho を取り除くので「善玉コレステロール」と呼ばれています。
LDL-Cho	低比重リポたんぱく質	血管壁に溜まり、動脈硬化などを起こすので「悪玉コレステロール」と呼ばれています。
TG	中性脂肪	高値だと動脈硬化や脂肪肝の原因になります。 食後は高値となるため、採血は空腹時に行いましょう。
LAP	ロイシンアミノペプチターゼ	肝機能、胆道系の指標。
GLU	血糖	糖尿病などで高値、低血糖では低値になります。
HbA1c	ヘモグロビンエーワンシー	過去１～２カ月間の血糖コントロールの指標。 糖尿病である可能性があるかどうかを判別する数値です。
Ca	カルシウム	骨代謝などをみます。
IP	無機リン	
CRP 定量	C 反応性蛋白	体内で炎症が起きている時に高値になります。
Fe	鉄	鉄は赤血球を作る元素です。貧血の指標になります。鉄は血液を運ぶ蛋白質にくっついて身体の中を巡りますが、UIBC はくっついてない部分です。TIBC は鉄の血中総運搬能です。トランフフェリンという蛋白質と鉄の結合しうる能力（鉄＋ UIBC）をいいます。
UIBC	不飽和鉄結合能	
TIBC	総鉄結合能	
WBC	白血球数	炎症、感染症などにより高値になります。血液の疾患などにより低値にもなります。
RBC	赤血球	主に貧血の指標。貧血などにより低値になります。 多血症で高値になります。
Hb	ヘモグロビン	
Ht	ヘマトクリット	
PLT	血小板数	一部の貧血、肝疾患、血液疾患などで低値になります。 血液を固めるのに必要です。
RDW SD	赤血球粒度分布幅	赤血球粒度分布幅と呼ばれ輸血時や赤血球大小不同症、奇形赤血球を認める時に高値になります。
RDW CV		